



【特集】

技

古くて新しい「小屋裏」居住

三人の子供部屋とキッチン付きのフリースペース

●古民家「アズマヤ」のリフォーム

越中八尾駅から山あいには車を走らせること約8キロ。ウグイスの鳴き声とどろく自然ゆたかなところに坂本様のお宅はあった。

砺波地方の古民家によくみられるアズマヤ(アズマダチ)の坂本家は、豪雪に耐えられる確かな材料と工法で百年以上の築年齢だという。

「先祖が苦勞して永らえさせてきた家屋ですから、わたしたちも大切にしたい。我が家の歴史を象徴するような古い柱や梁を残すことで、ここをきっかけしてくれた父にも感謝をあらわしたかった」

依頼主である坂本家の若夫婦、隆志さんと由紀さんはこう語る。

その思いを受けて担当者はアズマヤ建築のイメージをくずさないよう努め、工期の四分の一を下地の修正に費やしたという。予想以上に水平・垂直にひず



▲黒く塗り直された梁材が白い壁に栄える。



▲昔ながらの「アズマヤ」を活かした堂々とした外観。

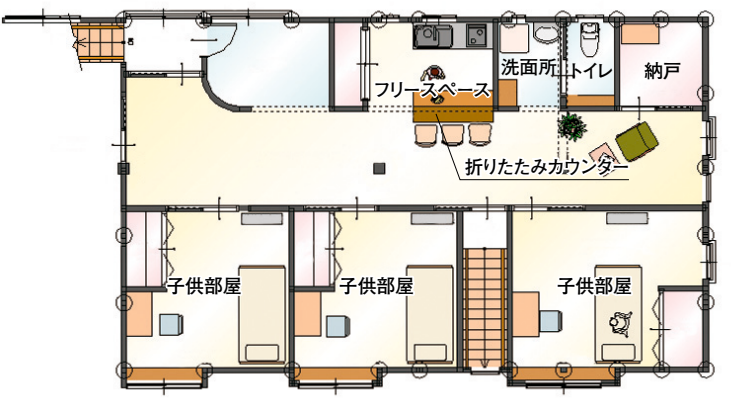
「親子五人がいつしよに寝ていたんです。長女が中学生になるのを機に子供部屋を作りたかった」と奥様の由紀さん。

●「小屋裏」に子供部屋をつくる

みが生じていたからだ。新築工事では考えられない作業で「終始、修正と創造のくりかえしでした」と担当者は感慨深げにふりかえる。



▲小屋裏が居住空間に生まれ変わった。



▲小さなキッチンもしつらえたフリースペースは親子・兄弟のくつろぎの空間に。

●要望はとにかく寒さ対策

坂本様の、特に由紀さんの一番の要望は、寒さ対策を万全にしてほしいということだった。冬の寒さは格別らしい。

工期がちよつと冬から春にかけてだったが、暖冬といわれたこの冬も、午後三時を過ぎるととたんに冷え込んでいくのを実感したと担当者はいう。

「まだ、この部屋で冬を過ごすつもりではありませんが、断熱材の使用だけでなく、窓など開口部の防結露対策も徹底させました」と担当者は寒さ対策に自信

●お茶の時間のための小さなキッチン

リフォームされた部分には、子供部屋のほかに、洗濯室、洗面所、トイレ、そして洗濯を干す十分な広さの部屋がある。納戸もある。とにかくゆったりとした空間だ。知らず知らずのうちに壁紙は色やキズがつくものだが、腰板がついているのも注目である。

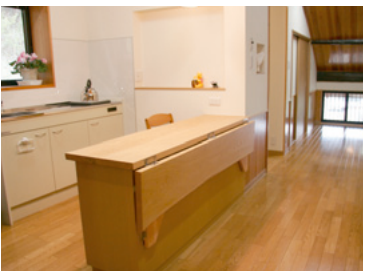
フリースペースには、小さなキッチンもしつらえた。由紀さんは、子供たちが自分たちの部屋にこもってしまうのではなく、親子で、兄弟どうしでお茶をのみながら「ミニニケーションする場を設けておきたかった」という。長女は友達を招くスペースができて喜んでくれるとのこと。「きっと、下の子は何年かは個室で勉強しないうえこのフリースペースのテーブルで宿題をしそうですね」

「天井が高いので、バドミントンができるかなと思っただけですけど、電灯や梁に引っかかって無理でしょう。卓球ならできかな(笑)」

古くて新しいスペースでの坂本様の生活イメージは、まだまだあたたかく膨らんでいきそうだ。



▼カウンターを使用しない場合は折たたむことができる。



今月のオーナー訪問



富山県富山市 坂本様ご夫婦

「アズマヤ造りが生かされました」

上の子が一年後には中学生になる、というので、ちょうど昨年春ごろから大工さんに相談していました。

アズマヤの家はきつちり左右対称になっているものなので、子供部屋の窓をつくるのにも苦勞されたみたいですね。

アズマヤ造りの良さを土台にして本当に時間と手間をかけてのよい仕事をしてもらったと思います。



技のリフォーム
1173 ミセマス
0120-183-304